

「口の健康と全身の健康」との関係性が取り上げられました。

歯科検診と
医療費の問題

2017年6月5日、

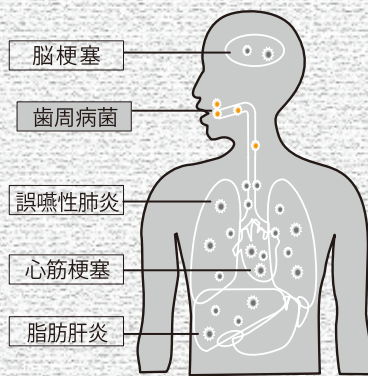
国会で初めて

歯周病が全身疾患に

関わりがある事が

取り上げられました

歯周病は生命を脅かす
原因の1つとされています。



イメージ図

「口の健康と全身の健康」との関係性が取り上げられました。

歯の病気は、子供や若年者では、虫歯。成人期では歯周疾患。高齢期では歯の損失です。

その為、各々の年齢に応じた口腔ケアを考える必要があります。

その方法として「8020運動」が注目されています。「8020運動」とは80歳で20本の歯を残せば何でも自分の歯で食べられ健康長寿へとつながっていく運動です。

そこで、最も注目を集めているのが口の健康と全身の健康に関する事についてです。

最新の研究です。口の健康が損なわれると歯周疾患となり歯周病などから歯茎の細血血管から血液を通して全身に運ばれ様々な全身疾患（動脈硬化や心筋梗塞、糖尿病など）を引き起こしてしまう関係性について数々の最新の研究、報告がなされています。

その中で、2017年6月の第百九十三回 国会、参議院決算委員会会議の「歯周病と医療費問題」の質疑応答の中で「口の健康と全身の健康」との関係性について山田宏議員と内閣総理大臣（安倍晋三）(他)との質疑、応答がなされました。

〔第百九十三回 国会、参議院決算委員会会議 2017年6月5日 山田宏 他 質疑 応答 一部抜粋〕
○山田宏議員 先ず、総理、総理は定期的に歯医者さんに行かれますか？ 歯が痛くなってしまうから行かれますか？とどうでしょうか。

○内閣総理大臣（安倍晋三） 基本的に歯が痛くなってしまうから行くんですが最近歯が痛くなる回数が多いものですから定期的に診て頂いています。

○山田宏議員 駄目なんです、それじゃ、歯が痛くなくても、総理さんのお年になれば、私も大体、ちょっと近いんですけれども、定期的に痛くなくても歯医者に行つて健診を受けて、なるべく早く歯周病などを治す必要があると思うんですが、これを見てください。（説明パネルが出される）

これはですね香川県の調査ですが、香川県の調査によると歯科健診をやっている人とやってない人、年間医療費が10万円、歯科検診をやっている人は少ないんです。どう言意味かと言つて、病気にならない。残存数歯数と診療費の関係を見ても歯がたくさん残っている人の方が医者にかかる。

そして、歯周病の程度と診療費の問題も歯周病が重度になればなるほど医者にかかる回数が増え、歯医者じゃないです、医師に、歯医になつて。

次のパネルを出してください。今は香川県ですけど、今度は○○○と言つた会社です。○○○と言つた会社も何千人かの被保険者の方の記録です。歯科健診を実施している事業所としてない所、つまりこれは実施していると医療費は下がっちゃうんです。歯科健診を実施していないと、その右側の図です。医療費は下がっちゃうんです。これも同じ、同じ傾向にあります。そして歯周病の有無によって、医療費は歯周病が有る方が高いんです。これに比べて、もうここまで来ているんですから、こういった口の健康と体の病気の相関性、直結していると言つても、怖くないんです。

私供としても、厚労省、昨年度、口腔の健康状態と歯科医療費や医療費の関係について様々な医療関係の企業やあるいは企業の健康経営組合などが実施をしたこれまでの成果や知見の整理、分析を行おうと思つてますしそれから今年度は定期的に歯のケアや保健指導などを受けた場合の医療費への影響についても調査研究をしようという予定にしているんじゃないでしょうか。

○国庫の臣（堀崎崇久） 御指摘の通り残存している歯の本数が多いほど医療費は低い、あるいは歯周病がいない人は歯周病がある人に比べて年間医療費は低いと言つた、そういうことを今、御覧を頂きましたけれども。

口腔の健康は全身の健康につながる、という重要なものだから、どういふふうにと認識をしております。私供としても、厚労省、昨年度、口腔の健康状態と歯科医療費や医療費の関係について様々な医療関係の企業やあるいは企業の健康経営組合などが実施をしたこれまでの成果や知見の整理、分析を行おうと思つてますしそれから今年度は定期的に歯のケアや保健指導などを受けた場合の医療費への影響についても調査研究をしようという予定にしているんじゃないでしょうか。

○山田宏議員 さすがですねやつて頂きたいと思ひますが、やはりこれから2025年、国庫の世代のたくさんの方々がいます、後期高齢者になる。そうすると、ばあんと医療費が上がる。一人当たりの医療費65歳から75歳の方は年間平均すると5万円、75歳以上になると90万円を超えるんです。つまりそれだけ沢山医療費がかかってくる。なるべく早くなくなっていく病気にかからない様に、かかっても重くない様に、これは口の中なんです。なぜ口の中、私も杉並区長時代、分かんたんだってのも国庫財政を何とか良くしようと思つて、みんな健診になってもらいたいと思つて歯力を入れました。小学校4校のうち7校に洗面台をにじと緑の洗面台を付けて、そこでフッシング指導してもらった。そうしたら、そういうじゃない学校、そのフッシング指導をしている学校、インフルエンザの罹患率がみんな違った。洗面台を付けてやっている所は翌年インフルエンザの学校間感染率45%。付けていない所79%ですから明確な差なんです。

口の中をちゃんとケアして、病気をなくして、病気をなくして、インフルエンザにならずに、医療費がかかりません。私はこういった事をやっている事がこれ、国の健康政策になるべきだと思ひます。杉並になりました。だから健診を行っている人は早めに見つかっていくんです。口の中、歯周病になった、口の中にやらない、歯医者に行かないです。だからこれから、やはり、健康政策を柱にして、本当に健康でいられる人を増やそう。そしてこれから医療費が上がってくるわけだから、その医療費が上がってくるのを本当に健康な人を増やして、そして、その部分、本当に必要な人に医療費を増やしていく以外、この難しい、社会保障の医療費を乗り越えていく、サービスカットをしてのりえり方法はない、私は思ひます。

総理、歯医者さんは何もなくても、お忙しい思ひますが、行つて頂いて、これがやらない、憲法改正、あるいはある訳ですから健康に気がつけて頂きたいという風に私は思ひます。そこへ、この自民党もこの事に気づいて2010年から「フッ素歯」の検診事項に、健診、歯の健診を広げよう。今、高校生までなんです、それ以外は任意なんです。これを全国民に広げていく、全年代に広げていくというところで特定健診に歯の健診を導入しよう、労働者の、一般健診ですね、会社でいろいろ健診やります。その健診の中に歯の健診を入れよう、こういう事を書いてきたんです。

もともと2025年の壁を乗り越えていく為には、口の中の健康を重視していく様に、こういった全年齢にわたって健診をやっていく、こういった事に公約通り、一歩踏出すべきじゃないかと思ひます。今回、骨子が決まった経済財政諮問会議のなかにもこの事に触れています。初めてです。今回、骨子が決まった経済財政諮問会議のなかにもこの事に触れています。歯が痛いだけではない、口の中をキレイにしては病気になるんじゃないんだから、この事に健康政策の柱にしてゆへべきだと考えておりますが、総理の御所見を伺いたしたいと思います。

○内閣総理大臣（安倍晋三） 只今、山田宏議員の話を受けて、私も定期的に歯の健診をしなくてはならない思いを強くした所でございます。特定健診、いわゆるメタボ健診では来年度から新たに問診の際の健康表に歯科に関する項目を加え、歯の状態に問題がある場合は歯科受診につなげることにしているところでございますが政府としては、これまでも「8020運動を通じ、歯科保健を推進してまいります。引き続き、歯の健康づくりを通じて、健康で長生きできる社会の実現に努めたい」と思ひます。先般は経済財政諮問会議でも議論がなされました。医療費の適正化等々の中において伸びてゆく医療費を抑えてゆく上においても、予防という観点から極めて重要である、このように認識をしてまいります。

〔第百九十三回 国会、参議院決算委員会会議 2017年6月5日 山田宏 他 質疑 応答 一部抜粋〕
この様に、国会の場で医療費問題解決の議論の中においても、政府として「口の健康が体の健康」に関与している事を認識しており、国民全体が「健康長寿」社会への表現となり得る為の、有効な取り組みの一つとして「口の健康」を保つ事に重要性が高まっていると言えます。歯周病など口腔内の病気にからず、「口の健康を保つ為にも、予防と言う観点から、「歯」をキレイにする目的だけでなく、効果的な口腔ブラッシングにより口腔内全体をキレイに保つ事を目的とした「オーラルヘルスケアプラン」での口腔内ケアが今後重要と考えられます。